ひまわり甲子園2015 選手宣誓

宣誓

福島の復興を願いひまわりを育てながら、自分を成長させてきた人たちが、ここに集まりました。

私たち家族は、震災後別々の場所で生活する道を選びました。この経験を通し、今まで当たり前だと思っていた事が本当はありがたいことだったと気付くことができました。

震災から四年が経とうとする今も、失ったものに胸を痛めている人がいます。全国から届くひまわりに込められた温かい想いがその痛む心を優しく包んでくれます。

福島ひまわり里親プロジェクトを通して、愛情と優しさのシンボルであるひまわりと光り輝く笑顔の花を咲かせていくことを誓います。

平成二十七年二月十五日

茨城県鉾田市立旭南小学校　四年　大和田紗希

茨城県と福島県をつなぐ紗希ちゃんのひまわり

原発事故の影響で、富岡町から茨城県に避難していた大和田紗希さん。2015年2月15日に行われた第3回ひまわり甲子園全国大会2015では、選手宣誓を務めてくれました。紗希さんは、2015年の4月から、故郷である福島県に帰郷することになりました。

茨城県で彼女が通っていた鉾田市立旭南小学校では、転校を目前にした３月、全校集会が開かれました。全校児童を前に紗希さんは、原発事故から避難の経緯、福島の現状を伝え、ひまわりの種を託しました。

旭南小学校では、児童会活動としてプロジェクトに取り組むことになります。来年の夏、紗希ちゃんが通ういわき市の新しい学校で、ひまわりを育てたいと意気込む紗希ちゃん。福島と茨城をつなぐ物語が生まれています。

ひまわり甲子園2015にご祝辞を頂戴しました

福島県
知事直轄広報課 課長 阿部 雅人 様

福島市 都市政策部
公園緑地課 課長 尾形 清二 様

メルマガ登録

ひまわり甲子園２０１５　震災があったから"こそ"生まれた物語

全国の想いを体感。もっと福島県民に広く伝えたい

今回のひまわり甲子園２０１５が私にとってはじめて参加させていただく甲子園でした。ＤＶＤで過去2回のひまわり甲子園の模様は拝見させていただいてきましたが、実際に会場で体感できる臨場感や熱気、そして生で伝わってくる全国の里親のみなさまの思いに衝撃を受けました。

ぜひ全国のみなさまに福島へお越しいただいてひまわり甲子園に参加していただきたいと思いました。そして福島県民のみなさまに全国の里親のみなさまの思いをもっと広く伝えていきたいと感じました。

ＮＰＯ法人チームふくしま 理事 藤島康広

ひまわり甲子園　参加者の声

信州北陸地区代表
諏訪市立中洲小学校（長野県）
教諭　**美斉津 浩子 様**

『福島ひまわりプロジェクト』の活動に心をこめてくれた二十九人の子どもたちに願うのは、一つの物事を、一つの方向からだけとらえたり、見たりするのではなく、いろいろな立場の人を思い、その気持ちや考え方に、温かく寄り添える心を育んでいってほしいということです。まだ九歳の子どもたちに、そのままを言葉で伝えても、真の理解は難しいかもしれません。

けれど、この一年間の活動を通してそのような育ちが、ほんの小さな芽かもしれませんが、確かにひとりひとりの子どもの中にあったと思えます。子どもたちが、一年かけて大切に大切に紡いできた、自分ではない誰かに向けた優しい思いや気持ちは、これからの彼らの育ちの中で、きっと、周りと自分自身を輝かせてくれる「たからもの」になることと思います。ここまで活動を温めてこられたのは、子どもたちの頑張りはもちろん、保護者の方々のご理解とご協力、大きな支えがあってのことです。また、力を貸してくださった多くの大人の方々の温かな心のおかげです。

子どもたちに「一生の財産となる心の育み」を、私を含めたプロジェクトに関わった多くの人に「つながる想いの幸福感」を、『福島ひまわりプロジェクト』の皆様、本当に、本当に、ありがとうございました。心から感謝しています。

子どもたちの想いを発表した中洲小学校 美斉津浩子先生

広島県 金融機関勤務
青谷 文子 様

福島は初めての地でした。降りたって言葉で表現しづらい何かを感じました。プロジェクトがどうしてできたかおぼろげながら感じるものがあったのも事実です。

甲子園当日、会場に入ったとたんにまったくそこの空気が違っていることにまず、びっくりしました。人の愛と思いやりに溢れる場の空気感です。

それぞれの発表は本当に素晴らしく皆さんの顔が美しくイキイキしていました。老若男女が同じ志で心ひとつにして行動することの素晴らしさを教えていただきました。

この活動の素晴らしさは活動する人が多岐にわたること、地域やいろいろな人をいい形で巻き込んでいること、継続していること、人が育ち、一方通行でなく循環していることだと教えていただきました。

将来ビジョンを示していただいたことでなお、いっそう、活動の凄さ、発展性を感じました。これは絶対みんなを幸せの渦に巻き込み命を産み出していくと確信しました。

甲子園が終わりに近づくに連れて体にどうにもならない感動が込み上げて抵抗できませんでした。だれを見ても何を見ても美しい世界が広がっていました。

すべての方にありがとうございました。

午後の部オープニングを飾った山木屋太鼓 チーム鴉
3年連続出演

福井県鯖江市立待小学校の児童。自分たちで詩を書いたひまわりのうたを披露した

ひまわり甲子園感想

オープニングで福島から全国への感謝のエールを力強く披露した福島東高校応援団。創団以来初の女子団長をはじめ部員5人のうち４名が女性の団。

広島県 医療機関勤務
田中 慎太郎 様

福島に行く前は、震災の状況を自分の目でしっかりみたい、少しでも福島県のために支援をしたいという気持ちでした。

参加してみて、動機が全く違う形になり、福島県のあたたかい人柄、純粋で今をみて、未来をみて後世に伝えている活動姿に感銘を受けました。誰ひとり、震災がなければよかったなど後ろめいたことをいう人はいませんでした。子どもたちは純粋にまっすぐ自分の気持ちをしっかり伝えて、人に伝わり、これは仕事、自分の生き方に、考える機会をあたえてくれました。

福島で過ごした時間はあっという間に過ぎ、ディズニーランドに来たみたいで、また、福島県に行きたい、福島県のあたたかい人たちとふれあいたいと、深く感じました。

本当に支えたいという一方向でなく、双方向が支援の形と気づきました。また、広島の地でコツコツと頑張っていきたいと思います。色々有難うございました。

中国・四国地区代表
海田町ひまわりの会（広島県）
渋谷 晋太郎 様

バスツアーでは被災地福島で、前を向いて「今」というかけがえのない時間を大切に生きる人たちのお話を聴かせてもらいました。

また、室内の遊び場ペップキッズの見学や移動中に見える除染作業の様子などから福島の「今」を感じさせてもらいました。

甲子園では福島県立福島東高等学校の応援団や山木屋太鼓 チーム鴉が会場を熱くしてくださり福島県内外の発表団体様からの心温まる物語の共有をさせてもらい会場は、なんとも言えない一体感に包まれました。

ひまわり甲子園は第一回から毎回参加させてもらっておりますが回を重ねる毎に全国と福島の感動物語も深みを増してきていると感じています。

そして新たな物語を共に創っていく全国の仲間とのご縁が深められたのもひまわり甲子園全国大会に参加させてもらえたおかげです。

福島県 ぽんさいやあべ
三代目 阿部 大樹 様

ひまわり甲子園、あっという間の一日でした。僕にとっては当たり前になっている種まき、その感動の原点を思い出させてくれる最高の機会でした。あの会場にいた方たちはそれぞれの生き方の中でそれぞれの心に響くものがあったのではないでしょうか。…少なくとも僕はそうでした。

誰かの為に、花を咲かせたい。感動を共有したい。刺激に慣れた大人たちには、いい目覚ましだった気がします。

岡山県 萩原 潤彦 様

今回の甲子園で繋がっていると言う実感を深く感じました。

全国で、また福島で、ひまわりの大輪でいっぱいになる事と思います。

最後に、8月5日は中四国大会で岡山に全国各地から来ていただくのを楽しみにしています！

海田町ひまわりの会の発表。他界した田原会長の想いを代弁
渋谷晋太郎様、田中慎太郎様、青谷文子様

エンディングは和の皆さんと会場全員でひまわりの歌を合唱した

立命館高校 3年 美淋 幹都 様

震災から4年が経とうとしている今、福島のために、東北のために、日本のために、誰かのために自分のことよりも周りの人のことを気にかけ活動している人がたくさんいることを知り、心から尊敬すると同時に僕も皆さんのようなカッコいい大人になりたいと強く思いました。

立命館高校で震災以降毎年行っているWarm Heartも今年で4回目。あの日の出来事を忘れないように続けることに意味があると信じて活動を行ってきました。

また、昨年福島訪問時に二本松亀谷郵便局様へ種の受け渡しを行いましたが、その種が二本松市の郵便局での種の配布につながったと知りとても驚き、また嬉しく思いました。ひまわりを中心に広がっている大きな輪の中に僕たちも加わることが出来て本当によかったです。

私は、2月28日に高校を卒業し立命館大学に進学しますが大学でも何かしらの活動は続けようと考えていますし、また福島の方にも是非お邪魔したいと思います。

福島に訪れた体験なども含めて発表した立命館高校学校の生徒会 杉原立朗様、大本彩夏様、美淋幹都様

立命館高校 2年 大本 彩夏 様

甲子園では、全国で行われている様々な取り組みのお話を聞けて、とても良い経験になりました。今までは、立命館で行っているWarm-Heartのことしか知らず、企画もなかなか思いつかず悩むこともありましたが、発想の幅が広がった気がします。

ひまわり甲子園は、「福島と各地を結ぶ感動物語」。私達は何度も変更や練習を繰り返し、どういう話をすると伝わりやすいか考えました。京都からの想いが伝わったとしたら嬉しいです。

中国地方代表のひまわり結婚式のお話は、幸せなご夫婦と温かい物語を聴かせていただき、特に印象に残っています。感動しました。

まだ2年生ですが、私達が卒業してもひまわりのことや、福島や東北との繋がりを、多くの人に大事にしてもらえるように、1年間頑張っていこうと思っています。本校でのWarmHeartには、多くの人に来ていただけたら嬉しいと思っています。本当にありがとうございました。

日本郵便株式会社福島県北部地区連絡会 二本松市亀谷郵便局渡辺昌幸局長。震災直後の郵便局の取り組みと里親さんへの感謝を発表した

岡山県 藤野 彰弘 様

回を重ねる度に全国の里親さんと福島の皆さんとの絆がより強くより深くなってきていると感じます。

また今回は特に、発表される学生の皆さんの姿に感銘を受けました。香取さんが総評で仰っていたように、我々大人がもっとシャンとせんといけないなと感じました。

原発問題の収束や除染作業、風評、風化対策など課題は沢山あると思いますが、「福島を忘れない、風化させない」取り組みの一環として、地域に根付いた永続活動を目指して、メンバーと共に取り組んで参ります。

岡山県 原田 行裕 様

震災直後に報じられていた現地の寒波は穏やかな気候の岡山ではなかなか感じる事は出来ませんが、今回雪の舞う2月の開催で、『あぁ、当時はライフラインも止まり、暖を取る事も出来ず辛かったんだろうなぁ……。』と今更ながら考えさせられた様な気がしました。

今後ももっと考え、もっともっと絆を深めて行きたいと思います。

岡山県 旦 真寿美 様

子ども達の純粋な想いに、心から感動しました。さきちゃんの宣誓！素晴らしかったです。

立待小学校の皆が歌うひまわりを聴いた時にはあついものが込み上げてきました。《当たり前と思ってる事が本当は当たり前ではない！》今と言う時間を生かされてるこの時を、感謝する気持ちを忘れる事なく、一日一日を大切に生きていこうと思いました。

～全国から福島へ～ きずなの種の贈呈式

京都府	立命館高等学校	大本 彩夏 様
福島県	学校法人石川高校	岡部 真弥 様
福岡県	筑紫女学園大学	浜月 明香 様
福島県	日大東北高等学校	中丸 雄太 様
千葉県	ガールスカウト千葉県第98団	上代 果穏 様
福島県	福島東高等学校	花井 友里子 様

ひまわり甲子園 2014　信州・北陸大会代表　諏訪市立中洲小学校（長野県）

■活動の概要

2014年に理事が学校を訪問。福島の現状やプロジェクトの概要を伝える授業を行い、それがきっかけとなりクラス全員で取り組む。ひまわり栽培と共に地域のグラフィックデザイナーさんが進めているプラスの言葉を視覚化して伝える「愛言葉」を使ったメッセージの作成を行った。満開のひまわりの前で「愛言葉」を持った子どもたちを写真におさめ、応援メッセージとして福島に届けた。

また、地元の農家さんと一緒に種取りをしながら、ひまわり工作を作るなど地域の人々との交流を行った。さらに、ひまわりをきっかけに、授業の中で、東日本大震災について学ぶきっかけとした。

ひまわり甲子園 2014　関西地区大会代表　立命館中学校・高等学校（京都府）

■活動の概要

東日本大震災をきっかけに発足した、東北復興を応援し、震災を忘れないための生徒たちによる活動「Warm-Heart」の中で、プロジェクトに参加。生徒会・ボランティアの生徒を中心に活動。毎年学校の講堂で講演会やトークセッションなどを主催している。また、植木鉢のトールペイントなども行い、2014年3月に高校生徒会が福島を訪問した際に種と一緒に手渡した。2012年から生徒会を中心に石巻、陸前高田など被災地にも訪問している。

学校内でボランティアを募集しひまわりを育て、プロジェクトを知ってもらうきっかけとし、東日本大震災への風化対策につなげている。

ひまわり甲子園 2014　中国・四国大会 代表　海田町ひまわりの会（広島県）

■活動の概要

平成6年に創設された広島県海田町の地域団体。町の中心部に8,000本のひまわりを咲かせ、町づくりの中心地となった。4月に行われる種まきには、毎年町内の4つの子ども会から約200名の児童が参加。また、ひまわり迷路やひまわりの絵コンテストなども会の活動として行っている。

プロジェクトの趣旨に賛同し、被災地に希望のひまわりを咲かそうと活動。田原会長の念願の夢だった「ひまわりばたけでの結婚式」が、2014年7月渋谷夫妻、海田町住民によって実現した。

2014年9月に田原会長が逝去。会は解散となったが、その意志を、挙式した渋谷夫妻や、会員が引き継ぎ、海田町では今もひまわりが咲き続けている。

ひまわり甲子園 2015 企業部門代表　日本郵便株式会社 福島県北部地区連絡会　二本松亀谷郵便局（福島県）

■活動の概要

2014年、二本松市、本宮市の全郵便局で5,000個の種を配布。郵便局には、特定団体のPR禁止の原則があり、さらに業務内容には細やかな内部規定もあることから、種の配布は困難とされていた。しかし、2014年3月、立命館高等学校の生徒会が福島を訪問したことで、日本郵便株式会社福島県北部地区連絡会への寄贈式が開催され、配布が実現。

震災直後、被災地の配達員は、瓦礫の残る中で手紙を配達し、被災地と全国の想いを繋いだ。震災後も、「今、何か、自分たちにできる事はないか」と活動を続け、2015年には、福島県北部地区全郵便局で１万個の種配布など活動を広げている。

ひまわり甲子園 2015　福島県代表　郡山女子大学（福島県）

■活動の概要

ひまわりガールとして、2014年度、プロジェクトのボランティア活動に参加。

震災直後に福島に住んでいながらも、何も出来なかった心残りから、その分、「今できる事を」とボランティアをスタート。イベントでの種の配布、種の寄贈式、ひまわりウェディングの運営の手伝い、開花取材、ひまわり甲子園運営手伝い、全国から届いたメッセージの整理などを行った。

全国・福島のプロジェクト参加者との交流を重ねるなかで、「当たり前のことに感謝する」ことの大切さを学んだ。また、NPO法人和でのボランティアも行い、それまで持っていた障がい者への近寄りがたいイメージがプラスに変わった。

ひまわり甲子園 2015　学校部門 代表　鯖江市立待小学校（福井県）

■活動の概要

2011年よりプロジェクトに参加。地域の人たちに種とメッセージを配布し、育てた。採れた種と一緒に児童が詩を書き、歌った「ひまわり」の歌のCDを贈り、プロジェクトの応援ソングとして使われている。

「ひまわり」は復興庁主催のRevive Japan Cup2014でグランプリを受賞。フジテレビ「お台場新大陸」でもNPO法人和の利用者とともに披露。ウクライナの国立チェルノブイリ博物館で行われた「福島展」でも児童が、歌う映像が上映された。2015年福島県教育委員会発行の道徳教育教材にも、立待小学校とこの歌にまつわるエピソードが掲載されている。（次頁に詳細）

また、児童の中には福島からの避難者もおり、歌を通して交流を深め、ひまわり甲子園をきっかけに福島に里帰りが実現した。

福島県教育委員会発行
小学校高学年向け道徳資料
ふくしま道徳教育資料第Ⅲ集に掲載

エピソードが教材に取り上げられた福井県鯖江市立待小学校の皆さん。ひまわり甲子園2015の発表の様子

平成２７年度、福島県教育委員会が発行する道徳教育教材に、本プロジェクトが掲載されました。ひまわり甲子園２０１５にもプレゼンターとして参加した福井県鯖江市立待小学校の皆さんが届けた、ひまわりの種と福島を応援する歌を通して福島の子どもたちの心情の変化が描かれています。

小学校高学年向けの教材で、尊敬と感謝がテーマになっています。平成２７年度から福島県内全小中学校に配布、道徳の授業で活用されています。

福島県教育委員会のホームページにて無料でダウンロードできます。
http://www.pref.fks.ed.jp/
（福島県教育委員会HP）

【掲載書籍】
ふくしま道徳教育資料集
第Ⅲ集 郷土愛 ふくしまの未来へ

小学校道徳教材 / 中学校 公民副読本に掲載

絆――復興をめざして助け合う人々

日本の絆――福島ひまわり里親プロジェクト

京都府宇治市立広野中学校では，大久保小学校・大開小学校と合同でヒマワリの種植え作業が行われた。広野中では，福島第一原発から南へ20km余りに位置し東日本大震災で被災した，校名が同じ福島県双葉郡広野町立広野中学校と交流を続けている。福島では「福島ひまわり里親プロジェクト」という取り組みが広がっている。これは，ヒマワリの種を販売し，全国各地で育て送り返してくれる里親さんを募り，活動の輪を広げる取り組み。種の袋詰め作業で雇用を創出し，県外の人がヒマワリを育てることで福島を忘れず，種を送り返すことで全国と福島をつなぐ「絆」となり，ヒマワリを見に来ることで観光対策にもなる……などの相乗効果を狙っている。

（参考：『洛南タイムス』2013.7.20）

（福島ひまわり里親プロジェクトHPによる）

ヒマワリの種を植える宇治市立広野中・大久保小・大開小の生徒・児童。

2015年度も、プロジェクトを中学校公民教科書２冊に掲載して頂きました。<２年連続>

京都府宇治市の広野中学校と、福島県広野町の広野中学校のひまわりを通じた交流を、取り上げて頂いています。

■掲載書籍

ビジュアル公民2015（東京法令出版）

見る、解く、納得！公民資料2015（東京法令出版）

「健ちゃん、図書室に本がたくさん入ったんだって。昼休みに見に行こうよ。」

本が大好きなぼくは、仲良しの健太くんを誘った。東日本大震災以降、さまざまな救援物資に交じって、全国からたくさんの本が、学校に送られてきていた。

「うん……。本もうれしいけど、ぼくはちがうものもよかったな。」

健太くんの答えに、ぼくは言葉をつまらせた。

「本じゃないもの……。健ちゃんは、どんなものがいいの。」

聞き返すと、健太くんが言った。

「となりの学校には、サッカー選手が来て、サッカー教室を開いたらしいよ。いとこの学校には、歌手が来て、歌のプレゼントをしてくれたんだって。」

「えっ、本当。いいなあ。」

ぼくたちは、震災後、被災地を訪れる有名人のことで話が盛り上がり、いつしか図書室に行くことを忘れてしまっていた。

五月のある日、全校集会の時のことだ。校長先生がおっしゃった。

「福井県鯖江市にある立待小学校のお友だちが、みなさんを元気づけるために、ひまわりの種を送ってくれました。イラストをかいた手作りの袋に種を入れて、たくさん届けてくれました。自分の背丈よりも大きなひまわりから種を収穫する時には、指先が紫色に変わるまで頑張ったそうです。みんなを応援するためにつくった歌も贈られてきました。さっそく、みんなで聞きたいと思います。」

やさしいメロディーとともに元気のよい歌声が、体育館中にひびきわたった。ぼくは、胸の中に、何かあたたかいものがこみ上げてくるのを感じた。

『風がふいても曲がっても　雨が降っても立っている　太陽に向かってのびていく　黄色い大きなひまわりの花』

すてきな歌詞が、ぼくの耳にいつまでも残った。

『風がふいても曲がっても　雨が降っても立っている　太陽に向かってのびていく黄色い大きなひまわりの花……。』

家に帰ってからも、ぼくの頭の中には、あのメロディーが流れていた。口ずさんでいると、お母さんが笑顔で話しかけてきた。

「あら純也。すてきな歌ね。」

ぼくは、ひまわりの種と歌のことを話した。

「まあ、福井から。ずいぶん遠くから送られてきたのね。純也たちのことを応援してくれる人が、日本中にいるってうれしいことね。それに歌詞がすてきよね。だって、ひまわりがまるで純也みたいだもの。」

「えっ、ぼくがひまわり……。」

ぼくは、思わず聞き返した。

「地震の後、たくさんつらいことがあったでしょ。それでも前を向いて頑張っている純也を見ていると、お母さんたちも元気になれたの。すてきな歌をつくってくれた福井の友だちに、お母さんからも『ありがとう』が言いたいわね。」

ぼくははっとした。

「ぼくが、ひまわり……。」

次の日から、交代でひまわりに水やりをすることにした。ぼくは、ひまわりみたいだと言われたことがうれしくて、この歌を歌いながら、毎日水をやり続けた。

夏、ひまわりは、今まで見たことがないくらい大きな花を咲かせた。

「先生、見て。すごいよ。このひまわりは、ぼくより背が高いよ。」

花壇に集まった一年生が、ひまわりを見て大はしゃぎしていた。

太陽に向かってまっすぐ伸びる大輪のひまわりは、ぼくたちを見てほほえんでいるようだった。

（「教材作成委員会」作成）

ひまわり

福井県鯖江市立立待小学校
3年生のみんな

少しでも　だれかの　力に　なりたい
ひまわりの花を　さかせたい
小さな種が　つながって　いって
たくさんの　小さな　芽を　出したよ

風がふいても　曲がっても
雨が降っても　立っている
太陽に　向かって　のびてゆく
黄色い　大きな　ひまわりの花

秋になったら　種が　とれたよ
みんなの　気持ちが　とどいたよ
心の中にも　さいた　ひまわり
いつまでも　ずっと　さき続けるよ

風がふいても　曲がっても
雨が降っても　立っている
太陽に　向かって　のびてゆく
黄色い　大きな　ひまわりの花

みんなが　助け合えば　心もつながる
そんな　日本が　大好きだ
100人の　人が集まれば
100こ以上の　愛が　集まるよ

風がふいても　曲がっても
雨が降っても　立っている
太陽に　向かって　のびてゆく
黄色い　大きな　ひまわりの花

心の中の　ひまわりの花

復興庁様より受賞 Revive Japan Cup 復興まちづくり 奨励賞受賞

授賞式にて審査員の小澤紀美子様から記念の盾を受け取る大和田理事

福島ひまわり里親プロジェクトが、復興庁主催のRevive Japan Cup 2014 ライフスタイル部門　みんなで創る「新しい東北」復興まちづくり　奨励賞を受賞しました。

この賞は、『「新しい東北」を創る卵を見つけ、育てるコンテスト。』として復興庁が官民連携のオールジャパン体勢で、"新しい東北"の実現を目指し、協同の輪を広げるため実施しているものです。

受賞の声

NPO法人チームふくしま
理事　大和田　勲

このたびは、リバイブジャパンカップ様よりプロジェクトが受賞を頂きまして本当にありがとうございます。

受賞式に参加させて頂き、改めて福島ひまわり里親プロジェクトの魅力を感じさせて頂きました。

これも、プロジェクトに関わってくださる皆様、何より全国のに里親の皆様の代表として頂きました。本当にありがたく感じました。

みんなで創る「新しい東北」復興まちづくりにおいて、奨励賞を受賞させて頂き、このプロジェクトの意義を再確認させて頂きました。

そして、微力かもしれませんが、里親様のお力のおかげさまで福島の復興に確実に貢献しているんだ、という事を確信することが出来ました。

本当にありがとうございます。

2015年2月23日掲載記事（The Japan Times）

Chikako Miura, who heads a nonprofit workshop in Nihonmatsu, Fukushima Prefecture, displays a bag of sunflower seeds Feb. 5. The drawing is by students at an elementary school in Nagano Prefecture. KYODO

Fukushima sunflowers lead to youth exchanges

Mie Sakamoto
Fukushima
KYODO

When two Girl Scouts from Chiba Prefecture joined the Fukushima Sunflower Foster Parent Project in summer 2011 to become "foster parents" for sunflower seeds, they didn't know exactly how it would help people affected by the 3/11 disasters.

But since visiting Fukushima, 20-year-old college student Shibata and 18-year-old high school student Horai, who wanted only their surnames used, said they now feel that exchanges with local people, who were happy just to see them in the prefecture, are exactly the kind of support required.

The nonprofit group Team Fukushima launched the project around two months after the disaster hit, hoping sunflowers could be used to cleanse radiation-contaminated soil, as reported following the 1986 Chernobyl nuclear crisis.

But a government experiment soon showed that sunflowers could do little to remove radioactive materials, so the group decided to focus on other objectives, including maintaining local employment and reviving tourism.

In the first year, it distributed more than 12,000 bags containing 5 grams of imported sunflower seeds — more than 60 kg in total — to sympathetic schools, companies, groups and individuals nationwide.

Ten tons of harvested seeds were returned the following year, the group said.

The returned seeds are being used across Fukushima to grow sunflowers, make edible oil and process used sunflower oil for fuel, said Shinji Handa, 37, who leads the group.

Shinichi Sakuma, a 63-year-old former teacher at an agricultural high school, invited nearly 20 Girl Scouts, including Shibata and Horai, to stay overnight at his home in the Fukushima town of Tamura in 2013. Sakuma has been growing sunflowers as part of a neighborhood project for about 20 years.

Though his Ogoe neighborhood is located less than 40 km from the stricken Fukushima No. 1 nuclear plant, Sakuma did not have to evacuate thanks to low radiation levels, he said.

"Since we joined the project in 2012 and started growing seeds harvested outside Fukushima, many people have visited the town, helping it to recover," he said.

Warmed by his hospitality, Shibata and Horai said they want to visit the prefecture again.

Horai said she was "shocked" by the appreciation shown by local people when they visited. The experience motivated her to join a Girl Scout camp that invited children from the prefecture last year, she said.

"It was about caring about people in Fukushima and not forgetting them, not merely trying to do something to support them," Shibata said.

To help retain employment, the group created jobs for disabled people at a workshop by enlisting them to pack sunflower seeds for shipping.

Run by nonprofit company Nagomi in Nihonmatsu, the workshop, which previously provided employment by making boxes for steamed buns, was severely hit by the 3/11 disasters, according to its head, Chikako Miura.

The workshop now receives sunflower seeds harvested in other parts of Japan, along with drawings and messages from children, under the project.

"We're grateful we were able to secure work so we can pay salaries to our workers," Miura said. "We all wanted to do something to revitalize Fukushima."

共同通信社が取材をして下さり、The Japan Timesに掲載して頂きました。全国の里親の皆さんの想いが全世界へと広がっています。

世界へ広がる想い

プロジェクトの物語を 福島の高校生が漫画に

プロジェクトでうまれた物語の漫画が出版されました。

「大輪の笑顔」とタイトルが付けられたこの漫画の作者は、福島県の高校生。学校法人石川高等学校の美術部の皆さんが執筆しました。また、絵本「たびくまとひまわりばたけ」でも印刷、製本に携わってくださいました株式会社しまや出版様による宮城県石巻市の復興支援用紙（モンテシオン用紙）での印刷・製本のサポートと多くの皆様のお力添えによってプロジェクトが新しい一つのカタチとなりました。

小学生から大人まで幅広く、家族や友人などで楽しみながらプロジェクトを知ることができる内容で活動の紹介をさせて頂いています。

学校教材などにご活用の場合など、お問い合わせは024-529-5153（事務局）まで。

震災の時の経験、想いを次の世代に伝えたい～学法石川高校美術部～

コミックを描いた学法石川高校美術部の３人と顧問の野崎先生

2年　岡部真弥 様

今回の漫画化にあたり、このような重大な役割が私達にできるのかと、とても不安になりました。しかし、東日本大震災があったことを忘れてほしくない、原発事故の悲劇を**次の世代にも伝え続けていかなくてはならない**と思い、頑張って描きました。

2年　佐川莉奈 様

今回、この物語を描いている中で、改めて震災がもたらした影響の大きさを噛み締めることができました。多くの人が被害に遭い、今もなお苦しんでいます。

しかし、その一方で、今回描いた物語のように固い絆が生まれたことも事実です。

福島ひまわり里親プロジェクトの取り組みを通して**生まれた絆は、多くの人を勇気づけました**。そして、多くの人の笑顔を咲かせることが出来ました。

人の絆の強さと、暖かさを物語から感じ取って頂けたら幸いです。

2年　生方 伶奈 様

震災から四年が経ち、人々の心から震災の恐ろしさが忘れ去られているような気がします。それだけ復興してきたと捉えることもできますが、まだ、津波や放射能の被害を受け、苦しみ続けている人がたくさんいます。

私は、福島がもっと復興してほしいと思うのと同じくらい震災の時の経験や思いを風化されてはいけないと強く思っています。そして**次の世代にもしっかりと伝えたいと考えています。**

今回描いた漫画を通して、福島ひまわり里親プロジェクトの取り組みや、福島を心配し応援してくれた人々のことを知ってもらえれば嬉しいです。

石巻で被災した復興支援紙を使って印刷

この度はご縁をいただき、学法石川高校の皆様との復興支援マンガ「福島ひまわり里親プロジェクト『大輪の笑顔』」の製作に関わらせていただき、誠にありがとうございました。

このマンガに利用させていただいた本文用紙は、東日本大震災における津波で被災した日本製紙　石巻工場で造られた復興支援用紙モンテシオンです。しまや出版では、モンテシオン用紙をお客様からご依頼いただくと、売り上げの一部を復興支援金としていました。今回は福島ひまわり里親プロジェクトさんの活動に役立てていただこうとお話をし、復興支援マンガの製作費に使わせていただくことになりました。

スタッフ一同、気持ちを込めて印刷・製本いたしました。多くの読者様に想いが届けば幸いです。

株式会社しまや出版（東京都足立区）

代表取締役　小早川 正樹 様

同人誌専門の印刷会社として、コミックマーケットに40年携わる老舗印刷会社。

※同人誌…個人の方が趣味で制作するマンガや小説などの創作物

全国の想いが駅に展示　ひまわりステーション開設！

昭和17年の開業以来、行きかう人々を見守り続ける「曽根田駅」。

今年で73才になる赤い屋根の木造の駅舎が「ひまわり甲子園2015」をきっかけに『ひまわりステーション』になりました。

甲子園前日の2月14日に福井県鯖江市立立待小学校のみなさんをはじめ沢山の里親さんの手によって「ひまわりメッセージ」が展示されました。

駅を利用する方々がしばしば足を止めメッセージを読んでくださっています。わざわざ見に来られる方もいます。

ある方が「ふくしまは忘れられたかわいそうな所じゃないのよね」とおっしゃっていました。

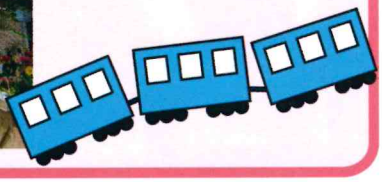
曽根田駅は、そんな言葉が聞こえてくる感動の駅舎になりました。笑顔が行きかう「ひまわりステーション」に是非お越しください！

福島交通株式会社　支倉 文江 様

曽根田駅にメッセージ展示を行った里親「のぞみ鍼灸整骨院」の柴田 大輔様、辻井 哲也様

福島交通飯坂線 曽根田駅

JR福島駅から福島交通飯坂線に乗り換え、一つ目の駅。
JR福島駅東口から徒歩5分。



京都府立命館高校

文部科学省指定のSGH（スーパーグローバルハイスクール）となっている立命館高校。3月19日～20日にかけて、生徒会生徒とSGHの生徒、約20名が福島を訪問しました。

生徒たちは、プロジェクトの吉成理事、鈴木会長の講話を聞き、福島県内でプロジェクトに取り組む、ら・さんた株式会社にて昼食。その他、ラジオ福島の大和田アナウンサーより震災後の福島の話をお伺いしたほか、曽根田駅で、福島市の第四地区の皆さんに種を寄贈し、福島と京都のきずなを深めました。

立命館高校の生徒達と種を受け取った福島市第四地区の皆さん

福島訪問の感想

（立命館高等学校2年生）

私は初めて福島に来て、みなさんのような素敵な方々に出会えてとても幸せだと思います。みなさんの前向きで積極的なところがすごく印象的で、その姿がとてもかっこいい！と思いました。

この震災で起きた事、復興にむけて行われていること、私は全てが他人事ではないと感じています。震災で被害を受けた方々への思いとともに、新たに福島や日本を立て直そうとしている方々への尊敬の気持ちでいっぱいです。

そして、私もその一人でありたいし、あるべきだと思っています。

私はその一人として、このような機会をもらえたことに感謝しながら自分のできることを模索していきたいです。そして、みなさんのようなかっこいい大人になりたいと思います！

今私は日本に対してすごく熱い気持ちでいます。このような機会をくださって本当にありがとうございます。

本当に感謝でいっぱいです。またこのような機会があればうれしいです！ありがとうございました。

プロジェクトをテーマに卒業製作！名古屋モード学園

～ひまわり記者大西さんレポート～

２０１５年１月２４日、愛知県体育館にて名古屋の専門学校で学ぶ学生さんたちがそれぞれの作品や学んだ成果を発表する「未来創造展２０１５」が開催。名古屋モード学園スタイリスト科で学ぶ学生の中川さんチーム４名がプロジェクトをテーマに作品を創りあげてくださいました。

中川さんチームのテーマは「ひまわりプロジェクトで世界を元気に！新ワークウェアで皆笑顔！」「復興支援ひまわりプロジェクトに参加し笑顔を届けよう！　見て着て元気になれる新ワークウェアを世界へ発信！」。

ひまわりの花で飾られたブースの中央、フリルやリボンなどでつくったひまわりのモチーフが可愛らしいワークウェアが目を引きます。

加えて、ブースの場所が、会場の入り口正面すぐ、というわかりやすい場所だったということもあり多くの方たちが、途切れることなくブースに足を運んでくださってとても大盛況でした。

中川さんたちは、ブースに立ち寄られた方々ひとりひとりに声をかけひまわりの種を配りながら、丁寧にプロジェクトの内容を説明してくださっていました。

また、メッセージコーナーも設けられ、ひまわりの花をかたどったカードに福島へのメッセージを書きこんでくださる方も。

今回「未来創造展」のテーマは「元気を創ろう！」というものだったそうでして中川さんたちは、「元気って何？」「元気を創るってどういうこと？」ということをメンバーで話し合うところからスタートしたそうです。

わりと、早い段階で、「花」は人を元気にしてくれるよね、中でも「ひまわりの花」は、特に人を明るい気持ちにしてくれるよね、では、「ひまわり」をテーマにして何か考えられないかな、という話は出ていたそうでして、いろいろ「ひまわりの花」をテーマにした活動などでどんなものがあるかを調べていく中で、「福島ひまわり里親プロジェクト」を見つけ、イメージや比喩ではなく、実際に、「花」が地域や人を元気にしている様子を知りご自身たちの作品にも、このプロジェクトを取り上げたい、と思ってくださったそうです。

中川さんは、最後に、こうお話してくださいました。

「今回の展示で、この素敵なプロジェクトを知ることが出来ましたし改めて福島のことについて考えることができました。今後も、このプロジェクトを愛着を持って、応援し続けていきたいと思っています」

中川さんのこの言葉を伺って、とても嬉しく感じましたし、また、こうやって、福島から離れた土地で、プロジェクトに込められた想いが、どんどん新たに広がっていく様子に接することができるのは、とても心強く感じます。

（レポート：愛知県の里親さん　大西 佐和 様）

ひまわりモチーフの
衣装を着た
名古屋モード学園中川 様

＜限定311セット＞
種つきグリーティングカード新発売

ひまわりの種つきグリーティングカード
各キャラクター１セット 1,000円
(311セット限定)

"きずな"の種の新商品として「ひまわりの種つきグリーティングカード」を限定発売！

ひまわり絵本「たびくまとひまわりばたけ」に登場するたびくまくん、リスくん、うさぎさんの３キャラクターのグリーティングカードに、きずなの種がセットになっているものです。

封筒とオリジナルの便箋入りとなっていますので、お手紙と一緒に"種"を大切な人に送ることも出来ます。

協力：株式会社紙イング様
なかがわ創作絵本教室様
はらきょうこ様

グリーティングカードの詳細・お申込みはホームページから
福島ひまわり里親プロジェクト　検索

2015年度のイベント予定

2015年 11月3日（火） 9:30～12:00
ひまわり甲子園2015
信州北陸大会（長野県長野市）
場所：三輪公民館　大ホール3階
（長野県長野市三輪4丁目15番1号）

2015年 11月29日（土）
ひまわり甲子園2015
中部地区大会（三重県松坂市）

2015年 11月29日（日） 10:00～12:00
ひまわり甲子園2015
関東地区大会（千葉県千葉市）
場所：千葉県青少年女性会館
（千葉県千葉市稲毛区天台６-５-２）

2016年2月21日(日) 9:30～15:00
ひまわり甲子園2016
（福島県福島市）
場所：福島県文化センター小ホール